

農工大の樹 その29

ク サ ギ



＜ 解 説 ＞

ク サ ギ

(クマツヅラ科クサギ属の種、学名：*Clerodendron trichotomum* Thunb, 中国名：臭牡丹樹)

この種は高さ4 m前後の落葉樹の低木で、我が国全域から朝鮮、中国、台湾にまで広く分布します。日当たりの良い場所であれば土地を選ばないため、林縁や伐採地などにみられます。しかし、他の樹木に覆われるとすぐに枯死してしまいます。枝には三角状卵型の葉を対生させ、8月から9月にかけてその先に白い深裂した花をたわわにつけます。秋、熟すと赤く深裂した萼（ガク）の上に光沢のある丸い碧色の核果を乗せます。澄みきった秋空の下、その姿がとても美しく目立つので、思い出す方も多いのではないでしょうか。美しいこの種ではありますが、独特の悪臭を持っています。それは近くを通るだけでも臭いますし、枝葉を折るとその臭いは極限に達し、鼻が曲がるほどです。和名はそのものずばり「臭い木」に由来します。嫌われることの多いこの種ですが、その若葉は食べられます。これで料理した「おひたし」は嘘のように匂いがなく、歯触りも良く絶品です。用材等の利用はありませんが、古くは根や葉が薬用にされたそうで、幹や根に入るクサギの虫は「子供のカンの薬」として賞用されたといわれています。

(農学部 教授 福嶋 司)